

- P1 平成23年度環境学習講演会報告
- P2 環境学習指導者紹介、ミニ情報、  
セミナーパークで自然観察！
- P3 こども自然共生活動推進プログラム活動報告
- P4 プログラム活動報告、センターからのお知らせ



平成23年度環境学習講演会を開催しました！ 平成24年1月29日(日)

## 私たちが選ぶ暮らし・環境・エネルギー



平成24年1月29日(日) 山口県セミナーパークにて、科学ジャーリストで筑波大学非常勤講師の東嶋和子氏をお招きし、「私たちが選ぶ暮らし・環境・エネルギー」と題してご講演いただきました。当日は80人の参加者となりました。以下、講演要旨を掲載します。

### ◆日本のエネルギー事情

日本の電力供給源として主要な石油等の利用を2018年までに5%減らし、原子力利用を40%増やすことを目標としていましたが、福島原発事故を機に見直しが必要となりました。日本のエネルギー

自給率は約18%で、原子力を除くと、約4%しかなく、エネルギー資源を輸入に依存しており、今後も化石燃料等を他国から輸入できるかが大きな課題です。(日本の食料自給率は41%)

### ◆世界のエネルギー事情

世界の主要な電力供給源は石炭火力で、日本では全体の3割近くを占め、米国やEU諸国、今後大きな伸びが予想される中国、インドでの比率が高くなっています。CO2の排出原単位は石炭火力が最も高く、エネルギー消費量が増大する中でCO2削減に向け、太陽光、風力などの再生エネルギーの導入が急務です。

### ◆EU(ヨーロッパ)諸国の事例～エネルギーは適材適所

ヨーロッパ諸国にはガスパイプラインが張り巡らされエネルギー共同体になっています。

フィンランドでは、エネルギー源の7割を輸入していますが、ロシアからの輸入を減らし、京都議定書の目標達成のため、原子力発電所を30年ぶりに新設しました。

スウェーデンでは、1979年に起きたスリーマイル島事故をきっかけに、2010年までに原子力全廃を決めていましたが、エネルギー代替策が進まず電力の5割を原子力で賄っています。地球温暖化防止のため、石炭火力発電所での木くず、おがくずの利用や、カルマール海峡での洋上風力発電などに取り組んでいます。

ドイツは、福島原発事故後、「脱原発」政策へ転換しています。自転車道路などの整備や、サッカースタジアムでの太陽光発電の設置などエネルギー政策に取り組んでいます。ドイツは太陽光や風力発電導入量が世界一ですが、エネルギーの電源構成比から見るとその量はわずかで、自国で産出している石炭が半数を占めています。

このように、エネルギーは「適材適所」で、国や地域で電力事情が異なります。

### ◆資源小国・経済大国日本の生きる道は？

日本には技術力があり、技術と知恵でエネルギーを創り出す「創エネ」が資源小国・経済大国日本のカギを握っています。地域の資源を活かした「適材適所」のエネルギーを「地産地消」すること(エネルギーマイレージ)や太陽光や風力発電、バイオマスなど、新エネルギーを活用した社会システムを整備し、環境・エネルギー都市を整備していくことです。また、日本が培ってきた環境エネルギー技術を活用し、高効率発電等の効率向上や電気自動車等の低炭素化を進めれば、世界のCO2排出量を削減することが可能です。

終わりに、講師から環境問題のみならず、身の回りの課題に取り組むには、「手近なこと、小さなこと、賛同してくれる人から始めませんか？」との呼びかけがありました。

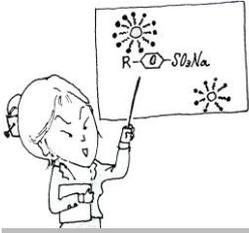




# 環境学習指導者をご紹介します！

H23 年度「環境学習指導者バンク」に登録されている指導者は、環境アドバイザー53人、環境パートナー81人、こどもエコクラブアドバイザー31人です。指導者になったきっかけや今後の抱負など寄稿いただきました。

## 環境アドバイザー 島添 美葉子さん(防府市)



今から 30 年近く前、京都の大学で界面活性剤(合成洗剤の主成分)の合成に取り組んでいた時、琵琶湖の水質汚染問題から合成洗剤の追放運動が盛り上がり、あちこちで市民団体等のシンポジウムが開催されていました。

そこで私が目撃したのは、「化学式や専門用語ばかりで説明する企業側」と「元素記号をみただけで拒否反応を示す市民側」の激しい対立。専門知識と生活実感を不十分ながらも両方持ち合わせていた私は、「双方の思いに大きな違いはないのに、『言葉』が通じなくて大ゲンカになっている」と感じました。この時の「生産と消費の間の歪みを埋める一助になりたい」という思いが、仕事として私が環境問題や消費者問題に関わるようになった原点です。

環境アドバイザーとなって以来、「今、私たちにできること、なすべきことは何かを参加者のみなさんとともに考える」というスタンスで、環境に関わる様々な問題を『生活の言葉』で易しくお話させていただいています。講義を聞いて、「将来は化学を勉強して地球環境を守る人になりたい」という感想を寄せてくれる小学生に出会ったりすると、あの時の私の思いが少しは形になってみなさんにお伝えできているのかなと嬉しくなります。

## 環境パートナー 有竹 英喜さん(光市)



自然とか環境に疎かった私が、環境というか自然に興味を持ったのは、23 年前、近くの小学校裏の里山整備に参加してからです。それは今も続いていて、地域と学校が一緒になって、遊具の手直しや枯木の

撤去、植栽などを行っています。

そして、ターニングポイントはきらら博の際に受けた研修です。きらら博が終わって、環境パートナーとして登録し、地球温暖化防止活動推進センターや環境学習推進センターの教材や指導助言を受けながら、少しずつ環境の話ができるようになりました。

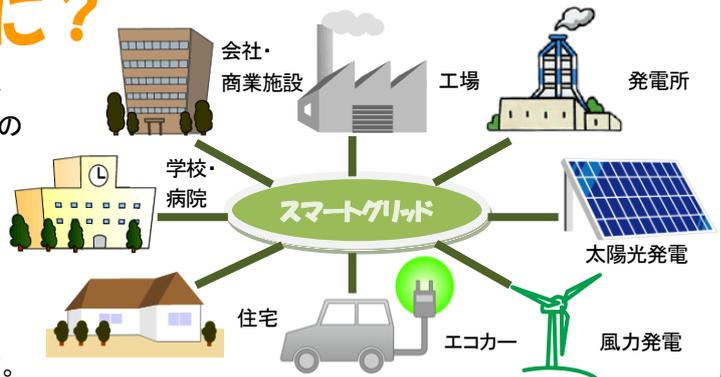
昨年は、高校で 240 人の生徒の前で、タイトルを「1 人の 100 歩より、みんなの 1 歩」と決め、クイズも入れて環境学習をやる事ができました。その後、生徒さんからの感想文を校長よりいただき、やってよかった、やれてよかったと思いました。

これからも地域協議会を中心に、今年第 4 回目となる「光エコフェスタ 2012」の実現と省エネ家庭診断の継続、環境学習のマニュアル化を図り、緑のカーテン等の普及を通してエコの輪を広げていきたいと思っています。

ミニ情報

## スマートグリッドってなに？

「スマート」は「賢い」、「グリッド」は「電力網」。つまり、「エネルギーを賢く使う」という意味を含み、IT 技術を活用して電力の需要と供給を自動的に調節し、電力の利用を最適化する次世代電力網のこと。従来の電力網では、発電所から送られる電気は基本的に一方向でしたが、スマートグリッドではネットワークにより双方向でやりとりでき、電力消費のムダを見つけ、省くこともできます。それを基盤とする街づくり＝スマートコミュニティが、これからどんどん進んでいくようです。



## セミナーパークで自然観察！Part.4

ビオトープもすっかり冬の様子。ガマは枯れ、スイレンもさみしい感じ。まだ寒いこの時期に冬眠から覚めて、産卵にやってくるカエルがいます。ここにやってきているのはニホンアカガエル。田んぼや湿地などに生息する体色が赤褐色のカエルです。繁殖期は2～4月で、水の中にゼリー質に丸く包まれた黒い卵を産みます。1つの卵塊には500～3,000個の卵が入っているそうです。黒いのは太陽光の熱を吸収しやすいからですって。繁殖を終えると、また冬眠するらしい。え？二度寝するの？！^^

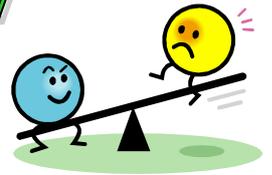


わたしのタマゴじゃないけどね



# 「こども自然共生活動推進プログラム」

## 〇体験発表会および環境学習講演会を実施します



- ☆ 日時: 3月11日(日) 10:00~15:00
- ☆ 場所: 山口県セミナーパーク 研修室102および講堂
- ☆ 主催: 山口県、(財)山口県ひとづくり財団
- ☆ 内容: 午前 「こども自然共生活動推進プログラム」実施団体による体験発表会  
午後 環境学習講演会 「地球ものがたり・海のすがた」  
水中写真家 中村 征夫 氏



## 〇採択8団体の活動報告



### 山口県央部・東部地域

#### Seeds (柳井市)

柳井市日積にある「お山の学校」でため池の整備と間伐作業を行いました。また、今後の生き物の変化を知るため、現在生息しているカエルやバッタ、トンボ、オオゴキブリ等を見つけ観察、記録しました。子ども達は「池ができれば、もっとたくさんのトンボが来る」と楽しみにしていました。



#### こぶしの里交遊会 (防府市)

防府市久兼にある「ふるさと牧場」で間伐作業や間伐材を利用した小物作りを行いました。間伐した木の皮を剥ぎノコで輪切りにして作品を作りましたが、生木を切ることはかなりの重労働でした。子ども達は汗だくになり「腕が筋肉痛!」と言いながらノコで、樹齢約20年のヒノキを輪切りにしていました。また、間伐材の活用や里山の役割等についても学びました。



#### 佐波川環境パートナーの会 (防府市)

山口市徳地にある「佐波川水源の森」で、下草刈り、枝打ち、間伐材を利用した薪作り、キーホルダー作りを行いました。また自然エネルギーの利用等についても学びました。自然の中で子ども達は、保護者から離れ積極的に生き物探しをする等楽しく活動していました。



#### 鑄銭司小学校おやじの会 (山口市)

山口市鑄銭司小学校そばの八幡宮裏山で、自然観察ができる遊歩道の整備を行いました。また鳥の巣箱かけ、クモの巣観察会等を行いました。子ども達は、近くに豊かな自然があることを知り、身近な自然に目を向け親しむことができました。



#### 田んぼの学校・山口 (山口市)

山口市仁保にある「めだか池」で、池や周辺の草除去作業、給排水路の手直し等を行いました。また池に隣接する林を自然とのふれあいの場にするため雑木整理等も行いました。子ども達は、池の中に繁茂した草やれんこんを取ったり、バッタやトンボを観察する等、自然の中で自由に遊び、散策していました。



## 山口県西部地域

### 特定非営利活動法人産業創造支援ステーション (宇部市)

宇部市川上にある「川上ファーム」後背地で自然散策路や秘密基地を整備するための竹林伐採や草刈等を行いました。初めて竹を伐った子どもは「竹を伐るのは楽しい。また参加する。」と元気に話していました。



### 出会の森ファンクラブ (下関市)

下関市阿内薫木の「出会の森」でビオトープの拡張、野鳥・樹木観察会等を行いました。拡張したビオトープに続く水路の整備も遊びの延長のように楽しむことができました。木の枝ブランコで遊ぶ等、里山には、子ども達の笑顔が絶えませんでした。



### なかと大内湯けむい街道協議会 (長門市)

長門市湯本、俵山間にある「旧赤間関街道北筋」で街道整備や案内板を設置しました。また、地域の自然や歴史についても学習しました。案内板は子ども達が旧街道を歩き、どこにどのようなものが必要かを考えて作ったもので、木々の間から空が見える所には「空を見上げて」、峠を越えた所には「おめでとう」と書いてあり、立ち止まって自然を感じられる場所となっていました。



## 希少野生動植物種保護支援員になろう

☆ 保護支援員の役割とは・・・

自然の中に出かけ自然とふれあい、自然を知ることから始めてください。そして動植物の観察会、研修会、ナベヅルのめぐら整備などの保護活動や竹林の伐採などの保全活動などに参加し、自分のまわりの人々に、希少野生動植物の現状や生物多様性の大切さを伝えることです。

☆登録の方法は・・・

希少野生動植物種保護支援員は、小学生以上であれば、どなたでも登録することができます(小学生の場合は保護者と一緒に登録)。『希少野生動植物の保護』や『自然と人との共生』に関心や熱意のある方、自然環境に興味のある方はぜひ登録を！！

登録につきましては、山口県環境生活部自然保護課(TEL083-933-3060)までお問い合わせください。



## 環境学習推進センターからのお知らせ

### ○環境学習教材の貸出、ご相談に応じます！

地域や学校、会社等での環境学習などに活用していただくために、環境に関する図書やビデオ等の教材を無料で貸し出しています。個人でもOK。現在、図書418冊、ビデオ・DVD等236本、紙芝居7話、環境啓発パネル10種類など。プログラム教材もいろいろありますので、いつでもご相談ください。



### ○セミナーパークで環境学習を！

自然ふれあいゾーンにある「環境クイズラリー」を楽しみながら、樹木の名前と役割を学べるように、コース周辺の樹木には樹木名ラベルを設置しています。自然観察会等にも是非ご利用ください。学習会のご相談も受付ています♪



<ごあいさつ> この度、任期終了により3月末日をもってコーディネーター3人、退職することとなりました。皆様方には、ひとかたならぬお世話になり、本当にありがとうございました。多くの方々と出会い、講座等ではご協力をいただきながらいろいろな経験、体験をすることができました。心から感謝しております。今後とも変わらぬご厚誼を賜りますようお願いいたします。(板垣・徳永・藤津)

発行元 (財)山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター  
〒754-0893 山口市秋穂二島1062 (山口県セミナーパーク内)  
TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720  
URL <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

